

TSY MANINONA

JOURNAL SUR MADAGASCAR



木川 莉江 KICAWA RIE

JICA青年海外協力隊として
マダガスカルのアンプイマナンブラで活動中
大塚製薬株式会社より現職参加
(2021-3次隊/コミュニティ開発)

4月22日（土）Ambohimambola 日本祭り

任地での日本祭りを無事に開催することが出来ました。個人的な反省点やトラブルは多々ありましたが、とにかく多くの方に「とても楽しかった！」等と嬉しい感想を沢山頂くことができ、胸がいっぱいです。

生活改善の活動を知ってもらうこと、さらに日本食販売を通じた女性グループの収入向上、そして日本文化を知ってもらうことを目的として企画した任地での日本祭り。

開催に向けて約2ヶ月前から、活動先の市役所職員や活動先の農業畜産省、JICAスタッフ、生活改善チーム、そして女性グループや地域住民や学校の子供たち、他任地で活動するJOCV、連日様々な人に協力してもらい沢山の準備をしました。ややあやふやなマダガスカル語での調整・交渉は不安だらけで、今思い返せば、皆に確認の連絡をしつこい程に何度も何度も取ってしまっていたと思います。笑

結果、当日は約1,000名の方にお越しいただくことができました。一番の目的であった生活改善ブースでは、改良かまどや泥炭の作り方を多くの地域住民に知っていただくことができ、日本食（大学いも、人参ケーキ等、おにぎり、からあげ）も数時間で完売し、女性グループの収入向上に繋げることが出来ました。

折り紙・習字などの体験ブースも沢山の子どもたちに参加してもらえました。ステージでは、日本の歌（未来へ/Kiroro、ルージュの伝言/松任谷由実等）や日本の踊り（マツケンサンバ、東京音頭等）をJOCVと地域住民のマダガスカル人で一緒に披露することができ、日本文化を楽しんでいただけたと思います。

一緒に祭りを作り上げてくれた全ての方に感謝し、この気持ちを忘れずに、任期満了まであと6ヶ月、更により多くの方に生活改善の取り組み、そして日本文化を知ってもらうことができるよう活動に精一杯励みたいと思います。



“

Mirary soa

「幸運を」という意味
マダガスカル人の皆さんも、
日本人の皆さんにも、
素敵なことが沢山ありますように
Mirary soa!



日本食（大学いも）販売の様子



FESTIVAL JAPONAIS À AMBOHIMANAMBOLA

ここからスタート

早くもマダガスカルに到着して1年が経ちました。任期は残り半年を切り、5月は配属先での中間報告もあります。季節は乾季になり、雨が降ることは殆ど無くなり段々と肌寒くなってきました。乾季はお米の収穫の時期、そして収穫後は「泥炭・改良かまど」の原料となる質の良い粘土が沢山取れる時期です。つまり生活改善活動を進める大チャンス！
今後も限りある時間、1日1日を大切に精一杯活動していきます。



生活改善ブース



お祭り前後に行なった
ゴミ拾い